

## 平成 26 年度 地球環境基金助成事業・県民の環境活動支援事業

## ちば里山カレッジ実施報告書（1）

特定非営利活動法人ちば里山センター

テーマ	ちば里山カレッジ「ボランティア養成講座」 入学式&オリエンテーション 第1回 講義&ワークショップ「里山の保全とボランティア活動」
日時	平成26年7月26日（土） 10:00～16:00
場所	柏市 さわやかちば県民プラザ 中研修室2
出席者	受講生31名（欠席4名）・来賓8名・講師5名・主催者7名・スタッフ2名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10:00～12:00 入学式&amp;オリエンテーション</li> <li>・13:00～13:30 「都市近郊の里山活動実践の10年 振り返りと今後の展望」 講師：千葉県北部林業事務所長 並木 康雄</li> <li>・13:30～14:10 ワークショップ：「里山ボランティア活動の中の自分探し」 副理事長：鈴木恵子 アシスタント 庄司恵理子</li> <li>・14:10～16:00 3つの班に分かれWS用アンケートを基に懇談会 副理事長：鈴木恵子 伊藤理事 小西理事</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式は来賓および講師の方々のご臨席を得、厳粛に行われた。</li> <li>・引き続き担当理事によるオリエンテーションがあり、これからのカレッジ開催のカリキュラム・諸注意事項の説明と質疑応答があった。</li> <li>・午後は第1回 並木講師による講義 東葛の森林は30年前を1としたら今は2/3になっている。昔は赤松が多かったが松くい虫により3万ヘクタール位松林が消滅し、その後人工林としてスギ・ヒノキが点在している。また北総は斜面林が多く上が宅地になっている。森林の維持については所有者にはお荷物となり維持が難しいという反面、地域の生態系には役立っていることを自覚している。公有化したらいいのだろうがそれは最終手段であり、行政としては自治力アップのために、里山と里山で活動したい人の仲を取り持ち、地域を活性化したいという方針が見える。 ボランティアについて必要なことは①専門性（プロ）②公共性③対価要求をしない④独自の決定権があること（これがなければただの奉仕活動になる。） 今後の活動としては、所有者と活動者が共通の目標を共有すること、自分のアイデンティティを持ち、あるがままを受け入れることと、向き合う自分が大事。正解がない世界ではあるが、自分・仲間・地域を考え、安全に長く里山活動を続けてほしい。と結ばれた。</li> <li>・つづけてネイチャーゲームを取り入れたワークショップ。楽しく気分を打ち解けながら、自然や里山に住む動物などの会話が弾んだ。最後に3班に分かれ、それを今後の活動班と決め、班長副班長を決定。（これもゲーム中に手にしたメモに印が書いてあり、自然に決定されていた。）</li> <li>・別れた班ごとに自己紹介や受講した動機などの話し合いがもたれ、今後一緒に行動する仲間意識が強くなったことを感じた。</li> </ul>

添付資料（写真）



入学式 理事長挨拶



来賓祝辞（千葉県北部林業事務所長）



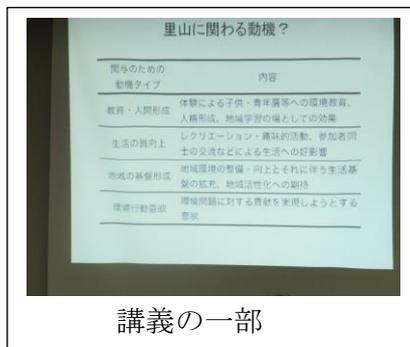
オリエンテーション



ご来賓の方々と受講生一同



並木所長 講義



講義の一部



ネイチャーゲーム



ネイチャーゲーム  
(はじめまして)



ネイチャーゲーム  
(アニマルバスケット)



ワークショップ  
(自己紹介&交流会)